

る厚膜化塗装の正確な理



相原技術顧問

施工管理者にかかっていると言っても過言ではない。言い換えれば、この長寿命化塗装の普及、拡大に大きく関わってくるので、ぜひ、講習会の趣旨を理解いただき、長寿命化の品質管理に努めて

会場)で開いた。



佐藤常務理事



ベテラン講師の講義

開会にあたり、あいさつした佐藤洋行・常務理事は、「国が発表した27年度末の汚水処理人口普及率は89・9%で、ほぼ90%に達している。このうち下水道処理人口普及率は77・8%で、処理場

年までに約90000人に受講いただいている。一層の技術力向上を祈念している」と話した。講義の後には、内容を確認する考課も行われた。昨年の東京会場の平均点は10点満点中9・3

16」を東京都千代田区秋葉原UDXギャラリー1で開催した。「リスクをプラスにテーマに調査、計測、シミュレーションなどの技術を組み合わせて、防災・環境リスクに備えるためのト

# 「アクアピグ連続発射洗浄工法」に注目

## 中里建設 佐野市で配水管の洗浄作業公開

中里建設は(本社・栃木県佐野市、中里聡社長)は10月11日、佐野市の大古屋町地内で新工法「アクアピグ連続発射洗浄工法」を発表し、公開で配水管の洗浄作業を行った。佐野市水道局職員を含め全国から30人が立ち会い、見学した。

今回の施工箇所は、昭和58年に布設したDIPφ100で、洗管距離は4800m。回収側の消火栓直下部は錆コフで60%以上閉塞した状況だった。投入口から12〜14ト給

水車で管路内に送水し、3回に分けて計6発(φ130×1、φ140×2、φ150×3)のピグを投入した。これまでは、1回の洗浄工程で1発のピグしか貫通できなかったが、新たに開発した連続発射装置では、2回目の工程で2発、3回目では3発のピグを貫通し、3工程で6工程と同等の結果を得た。洗浄時間は計画通り1工程あたり8〜10分だった。ピグとともに排出された汚れは、主に管壁の錆こぶや管底に堆積した砂

で、シルコートも含まれていた。洗浄後の管内カメラ調査により、ピグの発射個数が2倍になったことで、従来の洗浄方法の同工程・同時間の場合と比較し、明らかに洗浄効果が向上したことが確認された。

新工法が実管路で成功したことにより、今後は洗浄水の調達が困難となる狭隘な山間部や家屋・商業施設が密集する都市部においても、作業工程や作業回数の低減となり、洗浄水的大幅な削減と断水時間の短縮が期待

される。洗浄時間の短縮や洗浄力の強化により、洗浄効率も飛躍的に向上。水資源の節約や、騒音・振動など工事による近隣住民への影響や負担の軽減にもつながる。同工法は、やわらかさと強さをあわせ持った「アクアピグ」の摩擦力と圧縮復元特性を利用して、管内面を傷めずに濁質の原因となる汚れを効果的に除去する画期的な洗浄法。掘削、切管などの

工事が不要で、断水による住民への影響も最小限に抑えることができる。同社とアキレス(株)が共同開発したアクアピグは、球(ボール)型で通水性に優れた軟質発泡ウレタン素材に、表面を保護する特殊塗料でコーティングを施し、φ75のボール式補修弁から最大φ



φ130のピグを投入



連続発射したピグを回収

取りきれない汚れも落とすことができるので、使い続けている。工事にもなう送配水系統の変更で流速が上がると濁質が浮上するので、対策としてアクアピグは有効。今回の施工箇所では、今後の施工箇所では、今後ルーパ化を予定している。今後も、更新工事などの際には、安全で実績があるアクアピグを引き続き活用したい」と話した。